

## ミャンマーについて調べる

鶴ヶ島市は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンにミャンマーを正式登録しています。現在では「ミャンマー」という呼び方が一般的となっていますが、日本では明治初期にオランダ語の呼び方「ビルマ」が導入され、定着していました。「ビルマ」はいつ「ミャンマー」になったのか。この国の歴史や魅力を調べてみませんか？

### 概説・歴史

☆『ミャンマーを知るための60章』田村克己，松田正彦／編著 明石書店 2013【223.8ミ】 歴史、自然、社会、文化、政治、経済について、それぞれの専門分野でミャンマーと関わる執筆者たちが解説する。

☆『物語ビルマの歴史 王朝時代から現代まで』根本敬／著 中央公論新社 2014【223.8ネ】 アウンサンスーチー、「ビルマの豎琴」などで知られ、潜在力の高い新興市場としても注目されるビルマ(ミャンマー)。多民族・多言語・多宗教国家の歩みをたどり、未来を展望する。関連年表あり。

☆『もっと知りたいミャンマー』綾部恒雄，石井米雄／編 弘文堂 1994【292.3モ】 ミャンマーの歴史的背景、風土と地理、民族と言語、宗教と世界観、芸術と文学、社会と教育、政治と経済、日本との関係の8部構成。

### 民主化運動とアウンサンスーチー

☆『ミャンマー民主化運動』伊野憲治／著 めこん 2018【312.2イ】 民主化運動の歴史を、著者が現地でも記した日記の抜粋を交えて叙述する。

☆『ミャンマー権力闘争』藤川大樹，大橋洋一郎／著 KADOKAWA 2017【312.2フ】 ミャンマーでアウンサンスーチーが実権を握る新政権が誕生した。彼女の知人や友人を訪ね、国軍との「権力闘争」の行方を占う。

☆『ミャンマー・ルネッサンス』根本悦子，工藤年博／編著 コモンズ  
2013【223 ミ】 軍政から民主化への急激な転換が進むミャンマー。アウン  
サンスーチーの思想について解説するほか、企業進出による経済の変化につ  
いて、ミャンマーで活動する NGO 関係者の報告などを収録する。

☆『新ビルマからの手紙 1997～1998/2011』アウンサンスーチー／著，  
土佐桂子，永井浩，毎日新聞外信部／訳 毎日新聞社 2012【302.2 ア】

1997～1998 年および自宅軟禁解放後の 2011 年の、著者からの手紙を収録。

☆『アウンサンスーチー愛と使命』ピーター・ポパム／著，宮下夏生，森  
博行，本城悠子／訳 明石書店 2012【289.2 アウ】 1988 年、母の看護  
で軍事政権下のビルマへ帰国し、その後全国遊説を開始したアウンサンスー  
チー。政権による弾圧と軟禁が続く中、最愛の夫も失うが、彼女はなおも闘  
い続ける。彼女の全貌を描く評伝。

☆『現代アジアの肖像 13 アウン・サン』根本敬／著 岩波書店  
1996【223.8 ネ】 アウンサンスーチーの父で、ビルマ独立闘争の指導者で  
あるアウン・サンの人生と、ビルマの近・現代政治史とを絡めて記述する。

## 経済・ビジネス

☆『ミャンマー経済の基礎知識』水谷俊博，堀間洋平／編著 日本貿易振  
興機構 2017【332.2 ミ】 ミャンマーの社会、政治、経済、産業・市場動  
向等を検証し、新規進出を目指す企業に役立つ実務知識を解説する。

☆『図解ミャンマー早わかり』工藤年博／著 中経出版 2013【338.9  
ク】 日本の企業がミャンマー進出を考える際に知っておきたい知識をわか  
りやすく解説。ビジネスパーソンのための「1 時間でわかる図解」シリーズ。

☆『新聞では書かない、ミャンマーに世界が押し寄せる 30 の理由』松下  
英樹／著 講談社 2013【338.9 マ】 ミャンマーでビジネスをし、幅広い  
人脈を築いてきた著者が、ミャンマーの現状やビジネスのコツなどを紹介。



## 旅行ガイド

☆『地球の歩き方 D24 ミャンマー（ビルマ）』『地球の歩き方』編集室  
／編集 ダイヤモンド・ビッグ社【290.9 チ】

ミャンマーの見どころや、旅の基本情報を掲載したガイドブック。

☆『るるぶミャンマー』JTB パブリッシング【292.3 ル】

ミャンマーのおすすめスポット、ホテルなどを掲載。

☆『はじめてのミャンマー』板坂真季／著 東京ニュース通信社 2018

【292.3 イ】 ミャンマーの美しい風景、料理、雑貨、ちょっと不思議な文化など、現地在住ライターの著者がミャンマーの魅力を紹介する。

☆『ぶらりあるきミャンマー・ラオスの博物館』中村浩／著 芙蓉書房出版

版 2016【069 ナ】 博物館、美術館、植物園、動物園、寺院、世界遺産など、ミャンマーとラオスの文化施設や観光スポット 130 箇所を訪問する。

## 紀行文・ルポルタージュ

☆『ミャンマーもつれた時の輪』射場博之／著 イカロス出版 2016

【292.3 イ】 多種多様な文化と伝統に彩られたミャンマーの風景。2011 年から 2013 年にかけての旅の体験を基に、ミャンマーの素顔と魅力を綴る。

☆『観光コースでないミャンマー〈ビルマ〉』宇田有三／著 高文研 2015

【292.3 ウ】 第Ⅰ部「〈ビルマ〉か〈ミャンマー〉か」、第Ⅱ部「ビルマ七洲八地域を歩く」、第Ⅲ部「ビルマの歴史・民族・宗教」の3部構成。ビルマ全土を踏破したフォトジャーナリストによる体験記と観光案内。

☆『ぶらりあるきビルマ見たまま』ウィリアムス春美／著 芙蓉書房出版

2014【292.3 ウ】 「ビルマの豎琴」の舞台を見てみたい、金の岩を間近で拝みたい。10年ぶりにビルマを訪れた著者が、10年前(2003年)と現在を対比させて綴った紀行文。

☆『ミャンマー いま、いちばん知りたい国 最新紀行』中村羊一郎／

著 東京新聞 2013【292.3 ナ】 お茶の研究者としてミャンマーを訪れた著者が、ガイドブックには載っていないミャンマーの魅力を紹介する。

☆『未知なるミャンマー』春日孝之／著 毎日新聞社 2012【223.8カ】

民政移管により世界の注目を集めながらも、謎の多い“未知なるミャンマー”へ、毎日新聞記者が潜入取材した記録。

## 言語

☆『単語でカンタン！旅行ミャンマー語会話』西澤卓美／著 Jリサーチ出版 2018【829.3ニ】 旅行で使うミャンマー語が話せるようになる、ミャンマー語会話ブック。すぐに使える旅単語集あり。CD2枚付き。

☆『ミャンマー語（ひとり歩きの会話集22）』JTBパブリッシング 2015【829.3ミ】 基本的な挨拶や言い回しなどの「基本表現」、旅行中の様々な場面で発生するフレーズを並べた「場面別会話」のほか、巻頭にミャンマーの基礎データ、料理、標識などをカラー写真やイラストで紹介。

☆『はじめてのミャンマー語』チェリー・マーラー・トウィン／著 明日香出版社 2014【829.3チ】 はじめてミャンマー語を学ぶ人のための入門書。文字の読み方、基本文法、基本構文、日常会話、ビジネス会話、基本単語などを収録。ネイティブの発音を収めたCD付き。

## ビルマ（ミャンマー）を舞台にした小説

☆『ビルマの豎琴』竹山道雄／著 新潮社 1993【Bタケ】

ビルマの戦線で英軍の捕虜になった日本軍の兵隊たちにもやがて帰る日がきたが、ただひとり帰らぬ兵士があった。第二次世界大戦でのビルマを舞台とした小説。市川崑監督によって1956年と1985年に2回映画化された。

☆『ビルマの日々』ジョージ・オーウェル／著、大石健太郎／訳 彩流社 1988【93オエ】 イギリスの作家ジョージ・オーウェルは、1922年から1927年の5年間を、警察官として植民地ビルマで勤務している。イギリス統治下の植民地ビルマで、著者が目撃したものとは一体何だったのか。敗者を描いた自伝的デビュー作。

